

ごみ処理基本計画見直しの視点を読んで

埋め立て量を減らすことを念頭に、36～74頁の基本計画に沿い、感じたことを書いてみます。

全体を通して感じたこと

この計画の基本方針1～4は、ごみはできるだけ出さない（方針1）、どうしてもでるものは処理する（方針2）、これらを実施する過程での効率的なやり方（方針3）と環境に配慮すべき事項（方針4）、にまとめられるか思います。

p44 簡易包装

贈答品の包装箱には2重3重になったものがあり、人手と手間がかかっています。資源の浪費や、空間の占める割合が高いためかさ高で運搬費の増加とCO₂増加の原因にもつながります。

是正するには、簡易包装は環境にやさしい取組みで、これからの社会の方向である、グリーンに配慮しない製品は時代遅れだ、というようなキャンペーンを積極的に行っていくべきだと思います。

p44 食品ロス

コンビニ惣菜は作るのに手間がかかるので、翌日の天気を確認してから作業すると言った余裕はなく、見込みで作ると聞いたことがあります。当然、売れ残りの発生する確率が高くなります。そこで、少なめに作って幸いにも完売し、その後の客が買えなかったとしても、この店のやり方は素晴らしいというような考え方が広く定着するようなムード作りが必要だと思います。

p44 生ごみ

段ボール堆肥化処理が困難な居住環境の人も多いことを考慮し、集約処理する堆肥化施設のようなものがあるとよいと思います。またバイオマス資源としてのさらに良い利用法があればと思います。

p45 再使用、修理

修理すれば使えるものを、修理の方が高くつく、といった安易な理由で、ごみになってしまうものが多いと思います。そこで、例えばサイクルプラザに修理センターを開設し、技術をもった方にボランティアで直してもらい、或いはそこに持込めばボランティアのアドバイスをうけて自分で治す体験ができるといったことが実現できないでしょうか。ボランティアには、市からの補助でバス代をわたすとします。環境政策課のイベントで工業高校の学生がおもちゃの修繕をしていますが、子供に物の大切さを理解してもらおう場として、大変良い取組みと思います。

p51 焼却施設

プラスチックを燃やせるものとします。プラスチック容器に貼られた紙ラベル、食品かすの付着したプラスチック包装容器、木材とプラスチックの複合資材、などは焼却し、よごれのない100%プラスチックだけを再生プラスチックにまわすということが可能になると思います。マイクロプラスチックの海洋汚染や、輸出しても引き受け国がない、といった最近の事情にもかかいません。

p64 埋め立てられる粗大ごみ

下段の図にあるように粗大ごみは破砕機にかけて細かくし、資源化できるもの、焼却できるものなどを分別して減量化するのが理想と思います。

「普及および啓発活動」の項の新設

ごみ処理関連の施設見学会の定期的開催、小学校副読本にごみ処理を取り上げてもらう、などの啓蒙活動が重要と思います。後段の排水処理計画にはこの項目があります。